

乳腺エコー検査



エコー検査では、乳房に超音波を当て、その反射波を画像に映し出すことでリアルタイムに乳房内の病変の有無・しこりの大きさ・脇の下などの周囲のリンパ節への転移の有無などを調べることができます。

乳がんの中には触診でも触れず、はっきりとした腫瘤になりにくい“非浸潤性乳がん”というものもあります。その場合、画像で乳房内の性状を見ることができる乳腺エコー検査がとても有用です。

また、欧米人に比べて脂肪が少ない高濃度乳腺の多い日本人女性は、マンモグラフィで診断しにくく、乳腺エコー検査が有用であるといわれています。

乳腺エコー検査では、放射線被ばくがないため、妊娠中の女性でも検査を受けることが可能です。痛みを伴わず、身体的苦痛がないこともメリットです。

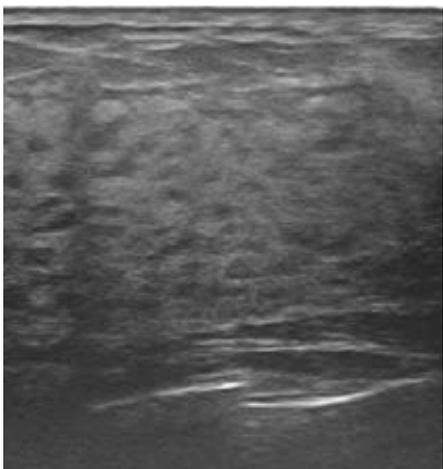
しかしながら早期の乳がんのサインのひとつである石灰化を見つけることは不得意であり、マンモグラフィ検査が有効となります。

マンモグラフィ検査と乳房エコー検査はどちらを検査した方が良いのか、とよく耳にすることがあります。検査として優劣があるわけではなく、検出するのを得意とする病状に違いがあります。

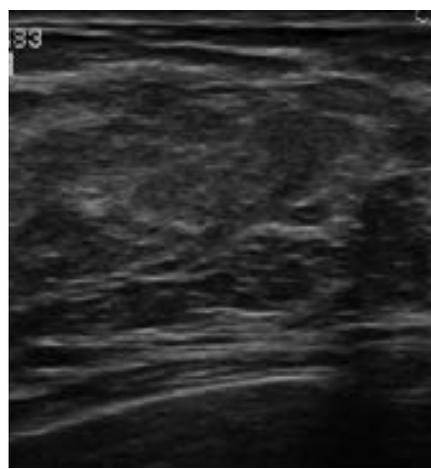
マンモグラフィと乳腺エコー検査を併用することは乳がん検出の感度を上げ、早期の乳がん検出率が上がることとなります。

《年齢による乳腺の変化》

20代



60代



若年層の乳腺は豹紋状の組織として描出されます。

年齢と共に乳腺は萎縮し、脂肪組織が優位となり豹紋状形態は消失していきます。

検査技師 山田佳奈